

JCI JAPAN TOYP 2020 エントリーシート

氏名*	佐藤 豪
フリガナ*	サトウ ゴウ
所属団体*	NPO法人 日本ブラインドサッカー協会
活動内容* (200文字以内)	パラリンピック競技でもあるブラインドサッカー。この競技を通じ、『視覚障がい者と健常者が当たり前に混ざり合う社会の実現』をビジョンに活動しています。私自身は国内で行う国内大会、国際大会の事業統括を行い、関わる全ての人々が『主役』になる大会設計を目指し、障がい者スポーツでは異例ともいえる有料興行化、誰もが楽しめる観戦環境づくり、1から手創りで創り上げることに拘りぬき、ビジョン実現に向け邁進しています。
活動カテゴリー*	<input type="checkbox"/> ビジネス・経済・起業 <input type="checkbox"/> 学術 <input checked="" type="checkbox"/> 文化 <input type="checkbox"/> 倫理・環境 <input checked="" type="checkbox"/> 青少年育成・世界平和・人権 <input type="checkbox"/> 人道支援・ボランティア <input type="checkbox"/> 科学技術 <input type="checkbox"/> 自己啓発 <input type="checkbox"/> 政治・法律 <input type="checkbox"/> 医療革新 <input type="checkbox"/> その他()
紹介者氏名 紹介者がある方は記入	藤野直美さん
紹介者所属団体	立川青年会議所
JCI JAPAN TOYPを どこで知りましたか？*	<input checked="" type="checkbox"/> 青年会議所会員からの推薦(立川青年会議所)・ホームページ・フェイスブック・ <input checked="" type="checkbox"/> チラシ・メディア()・その他()
紹介理由 (200文字以内) ※紹介者がある方は 記載をお願い致します。	東京オリンピック・パラリンピックの開催決定以降、国内ではパラリンピック競技への注目度もかつてないほど高まってきた。そんな中佐藤氏は、日々体験授業を通じた障がい者理解の促進、競技普及に奔走。講演会やメディアでも発信を継続している。大手企業を辞め、自分の直感を信じ飛び込んだ世界で、官民とのつながりを強固なものとし、よりダイバーシティな社会づくりへ向けて取り組んでおり、今後の社会に大きき発信力を持っていく人材である。

<p>顔写真*</p>	
<p>経歴 (200 文字以内)</p>	<p>2014年 ブラインドサッカー協会入局 2014年～現在 ブラインドサッカー体験型教育プログラム講師 2017年～2019年 アクサブレイブカップブ ラインドサッカー日本選手権実行委員長 2019年 ブラインドサッカー チャレンジカップ2019実行委員長 2018年～2019年 IBSA ブラインドサッカーワールドグランプリ 実行委員長 2020年 Santen IBSA ブラインドサッカーワールドグランプリ 2020 in 品川 実行委員長 2018年～現在 大会地域連携事業部責任者</p>
<p>活動PR1* (200 文字以内)</p>	<p>【教育現場での活動と展開】 小中学生向けの体験型プログラム講師を6年ほど行っており、実施人数は個人でも述べ20000人を超えました。視覚障がいのある選手と学校へ訪問し、ブラインドサッカーを題材に、障がい者理解のみならず、コミュニケーションの大切さ、チャレンジ精神、相手を思いやることのすばらしさ等を90分の体験型ワークで学びます。昨年は、生まれ故郷宮城県仙台市でも15件実施。</p>
<p>活動PR2* (200 文字以内)</p>	<p>【障がい者スポーツの価値創造】 2014年に代々木で実施した国際大会を皮切りに、ブラインドサッカーは国内・国際大会の大規模大会においては有料化に取り組んでいます。『障がい者スポーツなのにお金を取るの?』、『俺たちを見せものにするの?』といった一定数のネガティブな声を受けながらも、この競技の価値を信じ、観戦環境の充実、演出をいれたエンターテイメント化を含め、有料にふさわしい空間づくりを行ってきています。</p>

<p>活動PR3 (200 文字以内)</p>	<p>【誰もが主役である大会のあり方】 ブラインドサッカーの大会は、多くの方の力で成り立っています。そのすべての人が主役であってほしい。選手も、スタッフも、お客様も、業者の皆様も。たくさんの当事者意識がエネルギーとなり、大きな発信力をもつ。と考えています。世界で初開催をしたワールドグランプリでは、2018年大会は3094名の総来場。2019年大会は5688名。少しずつ【仲間】が増えてきている実感があります。</p>
-----------------------------	---

■質問事項（全200文字以内厳守）

<p>質問1* (200 文字以内)</p>	<p>活動を始めたきっかけを教えてください</p> <p>私自身、障がい者＝可哀そうな人、何もできない人、自分には関係のない人、というように無意識的な差別を持っていました。そんな中、ブラインドサッカーを題材にした教育プログラムを見学に行くことになり、実際に学校で現場を目の当たりにしました。するとその90分間で考え方が変わってしまったのです。人の価値観にも影響を与えてしまうこのスポーツを、自分が届ける側になりたい。そう強く思えた瞬間が、きっかけであります。</p>
<p>質問2* (200 文字以内)</p>	<p>この活動を通してどのような未来を実現したいと思っていますか(ビジョン)</p> <p>自分のことを肯定でき、かつ他者受容ができる。心の豊かさが社会の豊かさを生む時代になっていく中で、ブラインドサッカーは、それらを体験をもって伝えることができる力強さがあると思っています。『違いを楽しめる』『違いから学べる』そんな世界観を創っていきたいと思っています。それはつまり、障がい者健常者関わらず、『混ざり合う社会』と言えるかもしれません。私人身の強烈な原体験を届け続けたいと思います。</p>
<p>質問3* (200 文字以内)</p>	<p>未来を実現するために今行っている具体的な活動をお答えください（アクション）</p> <p>①教育現場でのプログラム普及、展開 ②大会事業現場において『混ざり合う』を体現</p> <p>大きな部分で言いますと、上記2点での活動となります。 ②に関しては、企業協賛を得、行政サポートを得ながら実施しており、複雑な利害関係調整を図りながらより広範囲への影響力を持っております。①は現場稼働を、②においては、プロデュースから雑務まですべて行います。</p>
<p>質問4* (200 文字以内)</p>	<p>あなたの行っている活動は社会にどのような影響を与えていますか(インパクト)</p> <p>上記①においては、リアルな教育現場において視覚障がい者理解を含めたダイバーシティ教育をface to faceで実施し、協会としてはのべ13万人の子供たちへ届けています。②に関しては、大会アンケートにおいてのNPS値も非常に高く、観戦いただければ視覚障がい者への関心が高まることや、競技としての魅力が伝わるといったデータも出ており、地道ながら（年間総来場者約1万人）価値観への好影響を發揮しています。</p>
<p>質問5 (200 文字以内)</p>	<p>あなたの考えるリーダーシップをお答えください</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 決める力を持ち、常にポジティブに関係者を牽引する ・ ネガティブをポジティブに変換する力を發揮する ・ 数字にこだわり、目標達成を組織としてし続けること

■推薦者情報 推薦者がいる場合のみ記入

<p>ブロック名*</p>	<p>東京ブロック</p>
<p>青年会議所名*</p>	<p>立川青年会議所</p>

担当役職*	委員
担当者氏名*	藤野直美
フリガナ*	フジノナオミ
推薦理由* (200 文字以内)	東京オリンピック・パラリンピックの開催決定以降、国内ではパラリンピック競技への注目度もかつてないほど高まってきた。そんな中佐藤氏は、日々体験授業を通じた障がい者理解の促進、競技普及に奔走。講演会やメディアでも発信を継続している。大手企業を辞め、自分の直感を信じ飛び込んだ世界で、官民とのつながりを強固なものとし、よりダイバーシティな社会づくりへ向けて取り組んでおり、今後の社会に大きき発信力を持っていく人材である。